

# 臨終図巻

ニッポン  
ドクター和の



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。公益財団法人日本尊厳死協会副理事長としてリビング・ウィルの啓発を行う。映画『痛くない死に方』『けったいな町医者』をはじめ出版や配信などさまざまなメディアで長年の町医者経験を活かした医療情報を発信する傍ら、ときどき音楽ライブも。

350

俳優 寺田農

## 「生涯不良」を貫いた名バイプレイヤー

いつからか脇役を多く演じる役者さんのことを「バイプレイヤー」と呼ぶようになりました。この言葉は和製英語で、ハリウッドでは通じないそうです。その語源すら明らかになっていませんが、素敵な響きだなと思います。

僕は事前知識なしで映画館に飛び込んで映画を観る人間なのですが、主役の若い俳優が誰かわからなくても、名バイプレイヤーが出ているとそれだけで得した気分になります。

「好きな名バイプレイヤーは？」と訊かれたなら、真っ先にこの人の名前を挙げるでしょう。

俳優の寺田農(みのり)さんが、

3月14日に亡くなりました。享年81。死因は肺がん。所属事務所が以下のように発表しています。

〈最後まで仕事を続けながら、諦めることなく希望を持って、治療に励んでまいりましたが、桜の開花を待たずして帰らぬ人となりました〉



81歳といえば、日本人男性の平均寿命。2023年の厚労省の発表によれば男の平均寿命は81.05歳、女の平均寿命は87.09歳となり2年連続で前年を下

回りました。肺がんを患ったとはいえ、最後まで仕事を続けて平均寿命まで生き切った寺田さんはやはりスゴイ役者さ

んだと思います。

男性の場合、70代を過ぎてから発見されることが多いのが、前立腺がん、大腸がん、そして肺がんです。ひと昔前までは、70歳を過ぎたら積極的な治療はQOLを下げるから様子を見た方がいいよとアドバイスすることもありました。しかし最近の70歳は体力的にも精神的にも若々しく、高齢者とは呼べない人も多いです。70代、いや80代になっても手術や抗がん剤でがんを克服する人もいます。

### がん治療の「やめどき」

抗がん剤も分子標的薬が多く登場し以前よりも副作用が軽くなったこともあります。しかしそれでも必ず、がん治療の「やめどき」はあります。僕は以前、『抗がん剤 10の

「やめどき』という本を書きました。体力や精神力、そして人生観も関係してくるので、どこで治療をやるかは、十人十色です。

寺田さんはきっと、上手な「やめどき」を見つけて人生を全うしたものとお察しします。歳を重ねてもずっと、どこかニヒルで不良っぽい雰囲気(まど)を纏っていた演技が好きでした。2021年、36年ぶりに映画『信虎』で主演を務めた際、朝日新聞のインタビューでこんなことを仰っています。

「昔の映画は上原謙や長谷川一夫のように、主役はきれいな顔じゃないといけなかった。時代は変わるんだね。こんな顔でも主役が出来るようになった」

いやいやどうして、寺田さんは年を重ねるごとにどんどん二枚目になっていきました。「生涯不良」をモットーに、その生き方がお顔に滲(にじ)み出っていたのでしょうか。